

令和4年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立和霊小学校

1 自己評価書

教育目標	豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く和霊の子の育成					
基本方針	和霊教育の歴史と伝統を受け継ぎ、地域に開かれた特色ある教育を推進し、社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、心身ともに健やかで、主体性と実践力と郷土愛を身に付けた児童の育成に努める。					
本年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知的好奇心を高める学びの場や地域での多様な体験を通して、主体的に学び、社会に対応できる確かな学力を身に付けた児童を育てる。 ○ 全教育活動の中で、生命尊重や思いやりの心、郷土を愛する心を育てる。 ○ 基本的な生活習慣の定着と自分の命は自分で守ることのできる態度を育てる。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施 	A	A	
	②	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート 	B	A	
			<ul style="list-style-type: none"> ・教師アンケート ・児童生徒アンケート 	B	B	
			<ul style="list-style-type: none"> ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート 	A	A	
	③	家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート 	C	B	
	④	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート 	C	B	
			<ul style="list-style-type: none"> ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート 	B	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート 	C	B	
			<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート 	B		
			<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒アンケート 	B		
	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○効果的なiPadの活用について研究を深めることができた。 ○教職員研修もiPadを活用して行う等、感染症対策と両立させた様々なアイデア溢れる取組が見られた。 ○ESDカレンダーを作成し、地域・ふるさとに関する教科横断的な取組についての計画を作成し、学校運営協議会で共有することができた。 ●家庭学習(予習)、ねらいとまとめ連動させた授業を展開しているが、児童の学力の向上には至っていない。 ●タブレット等の活用については日常の効果的な取組についての情報交換、共有化が十分にできていない。 					
	<p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPadの利用について、情報交換や研修をすすめる。 ・HP等による効果的な情報発信について検討する。情報発信源を増やすことで多様な取組の共有化を図る。 ・授業改善等の取組は焦点化することで、しっかりと成果が検証できるように努める。 ・ESDカレンダーの具現化が今後の課題。熟議の結果を生かし、CS協力員を募集し、地域の力を入れながら教育活動を行う。 					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間づくりに努め、心の通う対人交流が深まってきた。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
			・児童生徒アンケート	A	
			・保護者アンケート	B	
	いじめの未然防止、早期発見、解決に向けて組織的に取り組むとともに、地域・保護者に対して、「学校いじめ防止基本方針」の周知に努めた。	・教師アンケート	A	B	
		・児童生徒アンケート	A		
		・保護者アンケート	B		
	③ 基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
			・児童生徒アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・児童生徒アンケート ・児童生徒の姿	B	B
・児童生徒アンケート ・児童生徒の姿			B		
<p>(成果と課題)</p> <p>○規範意識の高まりについては一部の児童はまだ課題が見られるものの、全体的には向上が見られる。</p> <p>○普段から学級担任を中心として、電話連絡や家庭訪問を通じて、児童とその保護者に対して丁寧に誠実に対応できている。</p> <p>●挨拶については高い評価となっているが、今後さらに家庭・地域に広げていくことが課題である。</p>					
<p>(改善策等)</p> <p>・和霊の和にかけて、「プラスの言葉」の言葉掛けを実践している。今後も実践を継続することで、自己肯定感や自己有用感を向上させたい。</p> <p>・必要に応じ、SSW・SC・スクールガードリーダー・ハート何でも相談員と連携、協力を得て、実効性のある組織的な対応を行う。</p> <p>・不登校やいじめの未然防止についての学校の取組の紹介や、基本的な生活習慣の確立に向けての家庭への啓発等、情報発信に今後も力を入れる。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C C	C
	②	働きやすい環境づくり 業務改善に向けて自校の課題を洗い出し、慣例にとらわれることなく積極的に改善に努めた。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	
			・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○教職員間の信頼関係が築かれ、何でも相談し合える雰囲気の職場となっている。昨年度よりワーク・エンゲイジメントも向上している。</p> <p>○業務改善ワークショップでの提案がいくつか具現化し、勤務時間が前期より短くなるなど、業務改善が少しずつ進んでいる。</p> <p>●まだ他校と比較しても平日、休日ともに勤務時間が長い。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・本年度の成果と課題を基に来年度もWSを実施し、多様なアイデアを出してさらなる業務改善を進める。</p> <p>・メール配信システムを変更し、効果的な運用を検討する。</p> <p>・他校の取組についての情報を入手し、連携しつつ取組を進める。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A B B	B
	②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
・地域アンケート	A				
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A B A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校運営協議会での熟議を行い、本校の課題が明確になった。</p> <p>○HPが充実しており、保護者だけでなく、教職員・児童も閲覧する回数が増えた。</p> <p>○学校評価呼び掛けの方法を改善し、ICTを活用しつつ、より多くの保護者等の声が反映される評価となった。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・HPについては今後は情報発信源を増やし、様々な啓発を続ける。</p> <p>・CS協力員を募集し、地域の力を教育活動に組み込む仕組みづくりを行う。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満